

マレーシア科学大学（マレーシア）

3月11日からラマダンが始まりました。イスラム教の人たちは断食をするということは知っていましたが、詳しい内容までは知らなかったなので、実際にその文化に触れることができうれしいです。3月11日から約30日間、ムスリムの人たちは日の出から日の入りまで飲食ができません。マレーシアはイスラム国家なので、ほとんどの人が断食をしています。生徒も先生も断食をする人が多いので、ラマダンが終わるまでは授業もオンラインです。24時間営業のお店が閉まっていたり、学校や公共施設での飲食は控えたり、断食をしていなくてもその影響を感じています。日中はとても静かで、夜になると賑やかになる様子も新鮮で面白く、ラマダンの終わりのハリラヤも楽しみです。

オウル大学（フィンランド）

振り返ってみると色々あり、充実していた月でした！

まず、3月の上旬のスキーホリデイの間に、Tandemの講義でお世話になっている友人の実家を訪問しました。ご飯が美味しすぎて、フィンランド料理はまずい！という私のイメージが完全に覆されました…ケーキが美味しすぎて泣いてしまうこともありました:)近くのスキー場にてスキーをしたり、家の自作サウナに入ったり、ここでは伝え切れないほどの魅力がたくさん旅でした！

次に、ラジオに出演したお話しです。友人に私の起業体験を話すと、ぜひラジオに出て話して欲しいということで、次の日に収録をすることになりました。初めてのラジオ、英語での収録、大緊張をして、全く思うように話すことができませんでした。自分の考えをしっかりと伝えられるようにもっと英語を勉強しようと思えましたし、自分の考えを口にする事の大切さを改めて感じました。

ナバラ大学（スペイン）

今月の特に印象的だった出来事は、駐スペイン日本大使が大学を訪問されたことです。大使が訪問された際に、日本人留学生としてカンファレンスに招待していただきました。大使が大学に到着され、直接お話をさせていただき、その後インドパシフィックに関する講演に参加しました。スペイン語で行われた講演でしたが、自分がすでに学んだことのある範囲と重なる部分が多かったため比較的理解することができました。スペイン語の実力はまだまだですが、それでも以前と比べて成長していることに気が付きうれしかったです。大使の講演の後、大使と一緒に大学を訪問されていた二等書記官の方と外務省のキャリアについてお話をさせていただきました。自分は外務省での仕事に関心がずっとあったので、貴重な体験でした。よりフラットな形でお話を聞いたことで、改めて将来の道を考える良いきっかけになりました。

セントクラウド州立大学（アメリカ）

私は人種差別について興味があり、春学期は人種差別に関する講義を二つ履修しています。アメリカの人種差別の歴史は根強く、現在でもその影響は根強く残っています。実際にあからさまな差別とまではいかなくとも、アジア人はよく舐められることが多いです。僕も留学に来てから差別まではいかないとしても、そのように感じるものが何回かありました。アジアヘイトや黒人差別、ヒスパニック系への差別など、さまざまな差別がアメリカでは現在も存在します。私が留学しているミネソタ州では2020年にジョージフロイドという黒人男性が白人の警察官に首を抑えられ、亡くなるという事件が発生し、そこから全米で“Black Lives Matter”と呼ばれる大規模なデモや暴動へと派生し、日本でも大きく報道されました。この事件を当時高校生だった時に知り、そこから人種差別について興味を持ち始め、留学した際にはこれらに関する講義を履修したいと思っていました。実際にミネアポリスにあるその事件が発生した場所に行ってきました。そこにはいまだにたくさんの花束とメッセージがあり、多くの人々に影響を与えたのだと実感しました。また、その周辺では大規模な暴動や略奪が発生したということとその近くに住んでいるルームメイトから話を聞きました。現在ではほとんどが修理されており、修理された建物や壁にはさまざまな絵が描かれていました。実際に現場を訪れることができて良かったです。

国立政治大学（台湾）

Practical Mandarin1、Happiness、Migration and Globalizationについては、グループワークがあり他の学生と楽しく授業を受けることができていると感じています。適度に課題が課されるため、程よい緊張感をもって授業に臨むことができます。グループワークでは未だに自分の意見を発信することに苦手意識を持っていますが、前期よりも挑戦心をもって臨めるよう尽力します。

ルーヴァンカトリック大学サンルイブリュッセル校（ベルギー）

実際にヨーロッパ、かつEUの中心地であるブリュッセルでは日々生活しているだけでEUやヨーロッパの影響や結束力をこれでもかと感じるので、授業の内容が手に取るように分かるということがよくあります。また、European Parliament、Council of Europe、European Commission、この三つはどれもほぼ同じだと思っていましたが、まあよく差別化・構造化されているなあと思います。毎回の授業で感嘆してしまうほどに、です。同時に、これは私の性分でもあるのですが、極東出身の自分がこれら授業を受けることの意義って何なのだろうとつい考えます。ポジティブな意味で、です。私はここではアウトサイダーだけれど、アジアとヨーロッパの相違点や類似点を知ることができるのは非常に興味深いし、自分がここにいる意味の一つなのだろうと思っています。国境横断の自由の有無は相違点の典型例です。